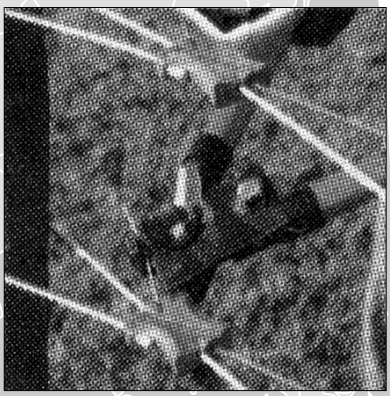
世界の農業機械●

−Let it− ブレードが変形する除雪車（ボブキャット社）

本格的な冬が到来すると、いつ突然の大雪に見舞われるかわからない。仕事で毎日使うトラックやミルクタンカーは、降雪時でも稼働させなければばらない。そこで必要となってくる除雪機シリーズをボブキャット（Bobcat）社では販売している。標準ポジションでは、ブレードを斜めに設置し、車体の左右それぞれに雪を押し出す。ブレードは中折れ式でV字型にすることもできる。同社では、このV字型が降雪量の多いときにより効果的に除雪ができる形だとしている。



ブレードは中折れ式で、V字型にも一直線にもできる。



「テンスレーター」は時間がたつと緩んでしまう電気ワイヤーの張力を維持させ、たるみを防ぐ。

−Get tight−
電気牧柵の張力を維持させる（スパルディングズ社）

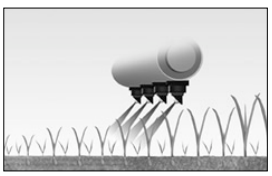
電気牧柵はピンと張っていなければ意味がない。しかし設置や固定、ワイヤーを張るのは意外と難しい。トラクタや垣根のせん定車、また四輪駆動車で引っ掛けて張る場合、特にそう言える。「テンスレーター」は絶縁素材でできており、設置や電気ワイヤーを張るのが簡単だ。またこの器具は、個別の絶縁杭やワイヤー伸張器具が不要で、ワイヤーのねじれも防げる。ワイヤーは時間がたつと緩むものだが、この装置を使えば張力のある状態を保てる。ワイヤーを張るプライヤーと伸張させるユニット25個のセットで価格は、92.59ポンド（約1万7000円）。ホームページはhttp://www.spaldings.co.uk/。（FW／6月23号）

−Nozzle to−
新型スプレーノズル（シンジェンタ社）

この秋発売された新型スプレーノズルは、スプレーの噴霧効果を改善し除草効果を高めたと、開発元のシンジェンタ社では話す。同社の販売した「ホークノズル」は、除草剤「ホーク」と共に使うもので、このノズルは前面にスプレーを行うので、雑草の上面ではなく側面にかかり、スプレーの当たる範囲が広がったという。「新型ノズルの試作品を使用してホークを散布した実地試験によると、ノスズメノテッポウの防除効果が97%から99%に改善した。ノスズメノテッポウははびこりやすく、対策が難しい雑草で、ぎりぎりまで防除することが必要」と同社のアリソン・ボッシャー氏は話す。

共同開発したシルソー研究所のバトラー・エリス氏も「草の大きさが小さいときほど、ノズルの形状が重要となる。このノズルは、小さな草に最大限の効果が出るよう設計されている」と話す。

（FWメルマガ／10月7号）





前面に向けてスプレーするように設計された新型ノズル（写真上）で、ノスズメノテッポウの99%の防除に成功した。

資材トレンド

このコーナーでは、「ファーマーズ・ウィークリー」誌を中心に、本誌が注目した世界の農業機械・資材情報をお伝えします。

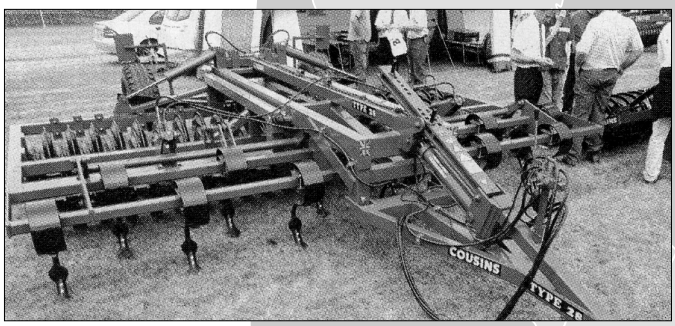

サブソイラタイプのタインで土壌を撹拌する。独特なディスクの形状にご注目。

－Cultivator’ s angled－
土壌に空気を混入させるカルチベータ(コンスキルド社)

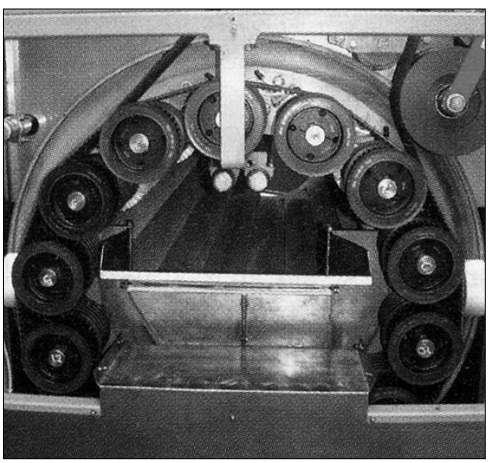
コンスキルド（Kongskilde）社製の作業幅3mのカルチベータ「パラグラバー」は、一風変わった6本のサブソイラータイプのタインで土壌を撹拌する。タインは湾曲していて、土壌を掘り起こし、空気を混入させる。土壌が粉砕された後の表面は凹凸が残るが、縦溝のついた2列のディスクが土壌を鎮圧し、播種を可能にする。コンスキルド社によると、ナタネの播種床作りを一度本機を動かすだけで終わらせる農家もあるそうだ。牽引に必要なトラクタは120馬力で、価格は6,745ポンド（約129万円）。（FW／6月25日）

－Heavy tines－切り株の残る圃場に強いカルチベータ（エムネス社）

前作の枯れた葉や茎で覆われた圃場での作業効率を改善させるため、エムネス（Emneth）社の最新のカルチベータ「カズンズ」は1列に並ぶスプリングタインを採用した。スプリングタインの耕深は調節が可能。このタインの後に均平化タインが続き、最後にタインと一体化したプレス-リングローラーが来る。残さ物の残る圃場や未耕作地に最適。本機の作業幅は4.6mで、価格は22,460ポンド（約430万円）。（FW／6月25日）



最前列の重量スプリングタインが切り株の残る圃場で効果を発揮する。


世界各地で使われる、イモを輝かせる「ベジポリッシャー」。

－Bringing a shine－
ジャガイモが輝く洗浄機（ワイマ社）

ニュージーランド、オーストラリアに続き、ついにイギリスでも、ワイマ社製のジャガイモ洗浄機「ベジポリッシャー」がハーバート・エンジニアリング（Herbert Engineering）社より販売された。宣伝文句によるとこの洗浄機は、ロータリーブラシによって洗浄し、さらにイモに輝きを付けるという。この方式は、従来のロータリードラムや高圧水よりも効果的で、イモのくぼみや不規則な形状のイモの土の汚れを洗い落とせると、同社では話す。

また、黒あざ病の原因となるリゾクトニア菌や表皮の汚れを落とすことができ、イモの等級が上がる場合もあるという。新ジャガ用にゆっくりと作動させることも可能だ。ブラシの毛のタイプは20種類あると同社で話しており、様々な用途や洗浄に対応できる。価格は50,000ポンド（約957万円）。（FW／6月18号）

FARMERS WEEKLY 特約 FW…FARMERS WEEKLYの略